

■ 本文

帥殿の、南の院にて、人々集めて弓あそぼししに、この殿渡らせ給へれば、思ひかけずあやし〔①〕と、中の関白殿おぼし驚きて、いみじう饗応し申させ給うて〔②〕、下臈におはしませど、前に立て奉りて、まづ射させ奉らせ給ひけるに、帥殿の矢数いま二つ劣り給ひぬ。

中の関白殿、また、御前に候ふ人々も、「いまふたび延べさせ給へ。」と申して、延べさせ給ひけるを、やすからずおぼしなりて、「さらば、延べさせ給へ。」と仰せられて、また射させ給ふとて、仰せらるるやう、「道長が家より、帝・后立ち給ふべきものならば、この矢当たれ。〔③〕」と仰せらるるに、同じものを、中心には当たるものかは〔④〕。

次に、帥殿射給ふに、いみじう臆し給ひて〔⑤〕、御手もわななくけにや、的のあたりにだに近く寄らず、無辺世界を射給へるに、関白殿、色青くなりぬ。また入道殿射給ふ〔⑥〕とて、「摂政・関白すべきものならば、この矢当たれ。」と仰せらるるに、初めの同じやうに、的の破るばかり、同じところに射させ給ひつ。

饗応し、もてはやし聞こえさせ給ひつる興もさめて、こと苦うなりぬ。〔⑦〕父大臣、帥殿に、「何か射る。な射そ、な射そ。」と制し給ひて、ことさめにけり。

■ 設問 (全20問)

1. 「思ひかけずあやしと、中の関白殿おぼし驚きて」とあるが、驚いたのは誰か、またなぜ驚いたのか、人物名(呼称)を明らかにして説明しなさい。
2. 傍線部①「あやし」の、ここでの意味として最も適切なものを次から選びなさい。
ア 美しい イ 不思議だ・意外だ ウ 身分が低い エ みすばらしい
3. 傍線部②「饗応し申させ給うて」について、次の問いに答えなさい。
「饗応し申させ給うて」を現代語訳しなさい。
「申さ(申す)」は何という種類の敬語か。また、誰から誰への敬意を表すか答えなさい。
「給う(給ふ)」は何という種類の敬語か。また、誰から誰への敬意を表すか答えなさい。
ここで「もてなした」のは誰か、「もてなされた」のは誰か、それぞれ人物名(呼称)で答えなさい。
4. 中の関白殿が、下臈であるはずの道長を「前に立て奉りて、まづ射させ奉らせ給ひける」のはなぜだと考えられるか。簡潔に説明しなさい。
5. 「帥殿の矢数いま二つ劣り給ひぬ」とは、どのような状態を表しているか。わかりやすく説明しなさい。
6. 傍線部③「道長が家より、帝・后立ち給ふべきものならば、この矢当たれ。」について、次の問いに答えなさい。
この一文を現代語訳しなさい。
「立ち給ふべきものならば」の「べき」は、ここではどのような意味(用法)か答えなさい。
この発言から読み取れる道長の心情・態度を説明しなさい。

7. 傍線部④「当たるものかは」について、次の問いに答えなさい。

係助詞「かは」は、ここではどのようなはたらきをしているか答えなさい。

「当たるものかは」とは、どのような気持ちを表した表現か。文法的特徴にふれて説明しなさい。

実際には矢はどうなったか。本文にそくして答えなさい。

8. 傍線部⑤「臆し給ひて」、傍線部⑥「入道殿射給ふ」の主語は、それぞれ誰か。人物名（呼称）で答えなさい。

⑤「臆し給ひて」の主語

⑥「入道殿射給ふ」の主語

9. 「御手もわななくけにや、的のあたりにだに近く寄らず、無辺世界を射給へる」とは、どのような様子を表しているか。「無辺世界を射る」の意味を明らかにして説明しなさい。

10. 「関白殿、色青くなりぬ」とあるが、関白殿（道隆）はなぜ顔色が青くなったのか。理由を説明しなさい。

11. 道長が、本文中で「入道殿」と呼ばれているのはなぜか。理由を簡潔に答えなさい。

12. 二度目に道長が放った言葉「摂政・関白すべきものならば、この矢当たれ。」を現代語訳しなさい。

13. 傍線部⑦「饗応し、もてはやし聞こえさせ給ひつる興もさめて、こと苦うなりぬ。」とあるが、なぜその場の興がさめてしまったのか。本文の内容にそくして説明しなさい。

14. 父大臣（道隆）が帥殿に「何か射る。な射そ、な射そ。」と言ったことについて、次の問いに答えなさい。

「な射そ」は、どのような意味か。文法（「な～そ」の形）にふれて答えなさい。

道隆がこのように言ったのはなぜか。その心情を説明しなさい。

15. この場面に登場する次の三人は、それぞれ誰のことか。また三人の関係（続柄）を答えなさい。

帥殿

中の関白殿（関白殿・父大臣）

入道殿（この殿）

16. この本文全体から、伊周（帥殿）と道長（入道殿）はどのように**対比**して描かれているか。両者の様子を比べて説明しなさい。

17. この本文から読み取れる道長の人物像として最も適切なものを次から選びなさい。

ア 臆病で人目を気にする イ 自信に満ち、豪胆で動じない ウ 争いを好まず控えめ エ 冷静で計算高く打算的

18. 【文学史】『大鏡』について述べた次の文の空欄に入る語を答えなさい。

『大鏡』は、藤原（ A ）の栄華を中心に描いた（ B ）物語であり、おもに一人の人物の伝記を連ねていく（ C ）体という形式で書かれている。

19. 【文学史】『大鏡』は、いわゆる「四鏡」とよばれる四つの歴史物語の一つである。次の問いに答えなさい。

「四鏡」のうち、『大鏡』以外の三つの作品名を答えなさい。

『大鏡』は、おもにどのような形式（語りの方）で物語が進められるか答えなさい。

20. 【文学史】『大鏡』の文体である「紀伝体」とはどのような書き方か。「本紀」「列伝」の語を用いて簡潔に説明しなさい。